

G2チューリップ賞

<最終見解>

今年のキズナ産駒は、今まで以上に充実の世代。

ディープ系走りやすいレースでは特に注目。

ここもキズナ産駒の上位独占も十分にあり得るメンバー、レース質。

一番的中率が高いのは 16 タガノエルピーダ。ということで本命。

相手もキズナ産駒に走ってもらいましょう。

G3オーシャンステークス

<最終見解>

芝短距離のなかではディープ系やTサンデー系など
中距離指向の主流血統が走りやすいレース。

本命はバースクライ。

父はTサンデー系のハーツクライ。
母父は欧州芝の超一流種牡馬ドバウイ。
シーキングザゴールド系は古くから中山芝 1200m 適性も高いです。

8 バルサムノートも中距離指向の血統。
この手のタイプはキング騎手だと今まで以上に動きます。

13 ダディーズビビットも父がダービー馬。
近親は同コース G1 も同競馬場 G1 馬も出している一族。